

リーフレット「活断層の地震に備える」

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の発生により、内陸の浅いところで起こる地震がもたらす被害の甚大さと対策の重要性を改めて認識することとなりました。これを受け気象庁は、文部科学省と共同で、住民一人ひとりの「陸域の浅い地震」に対する理解と「事前の備え」を促進するため、リーフレット「活断層の地震に備える」を作成しました（図 1）。

前回の一口メモでは、陸域の浅い地震とは、活断層とは、といった内容を紹介しましたが、今回は、大阪府周辺の活断層や、地震に対する心構えなどを紹介します。



図 1 リーフレット「活断層の地震に備える-陸域の浅い地震-」近畿地方版 文部科学省・気象庁作成
 気象庁HP <http://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/katsudansou/index.html>
 地震調査研究推進本部HP <http://www.jishin.go.jp/resource/pamphret/>
 左図：表紙
 右図：過去の陸域の浅い地震と被害

①大阪府周辺の活断層

大阪府周辺には、図2のように多数の活断層が存在します。中でも、大阪府下を南北に走る「上町断層帯」は、地震調査研究推進本部による地震発生の可能性を表すランクが最高位のS*ランクとなっています。また、伏見城の天守大破などの被害を発生させた「1596年慶長伏見地震」は有馬-高槻断層帯の活動によるものとされており、近年において甚大な被害を発生させた「1995年（平成7年）兵庫県南部地震」は六甲・淡路島断層帯淡路島西岸の活動による地震です。

地震の規模が兵庫県南部地震（M7.3）のようにある程度大きくなければ、地表にずれ、つまり活断層は現れません。活断層が地表に現れた場合でも、その後の侵食や土壌の堆積により不明瞭になってしまう場合があります。活断層が確認されていない場所でも被害をもたらすような地震が起きることがあり、日本にいる限り、どこでも大地震に見舞われる可能性があります。

②地震に対する備え、心構え

いつ発生するかわからない地震に対しては日頃の備えが重要です。建物の耐震補強、家具の固定、水や食糧などの備蓄、避難場所の確認などを行い備えましょう。

陸域の浅い地震では、緊急地震速報が間に合わず、いきなり強い揺れが到達することもあります。地震が発生した時には、大きな家具や窓ガラス、ブロック塀、崖などから離れ、身の安全を図るようにし、自分の身を守ることを最優先にしましょう。

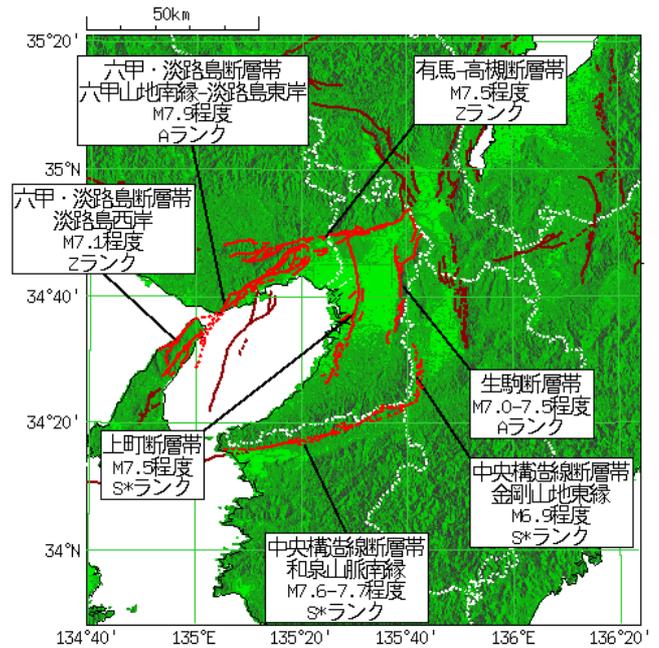


図2 大阪府周辺の活断層

赤線・茶線が地震調査研究推進本部による活断層
大阪府周辺の活断層にフラグをつけた。

ランクは今後30年以内の地震発生確率及びその数値により高いほうからS、A、Z、Xとなる。*は切迫度を表し、地震後経過率0.7以上のときに付記する。

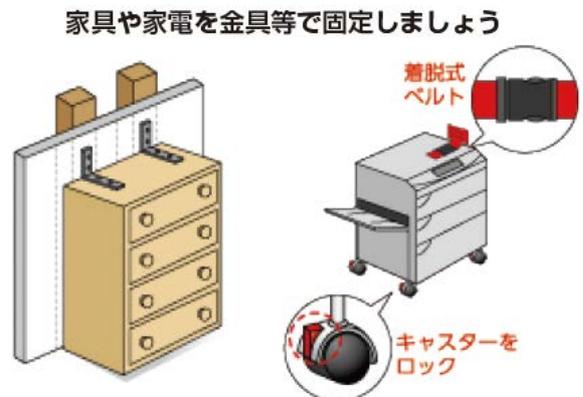


図3 地震に対する事前の備え リーフレット「活断層の地震に備える-陸域の浅い地震-」より